

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年7月1日(金) 10:00~15:00
開催場所	天草市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、江良委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、澤田委員、西村委員、山下委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和4年度第2回天草市総合政策審議会会議録について 4 議 題 (1) 第2次天草市総合計画の推進に関すること(外部評価) (2) 地方創生推進交付金等の事業実施に係る検証について (3) 第2次天草市行政経営改革大綱の策定について 5 その他 6 閉 会
審 議 内 容	
<p>議題(1) 第2次天草市総合計画の推進に関すること(外部評価)</p> <p>○全体概要説明</p> <p>(会長) 全体的な部分を事務局からご説明いただきました。</p> <p>天草市の総合計画は、環境指標・成果指標と、一つひとつ違うカテゴリーのものがあります。基本構想では、天草市の未来の姿となるものを目標に掲げており、その実現できているかどうかを見るために、環境指標を設定し、実現できているかどうかを審議会において確認していくこととしております。もう一方の成果指標は、基本構想を実現するための基本計画の状況を見るために、成果指標を設定しています。物事は単純な数式ではありませんが、成果指標を実現していくことで、環境指標が良くなっていくということとして設定しています。この審議会においては、環境指標について重点的に議論を行いますが、成果指標ができていても環境指標ができないことももちろん起こりえます。この審議会では、環境指標ができていない、またはこのままでは達成が困難というものに関して重点的に確認していきたいと思っておりますので、このことに対してどのような考え方なのか、今後どのように取り組んでいくのかを確認させていただきたいと思っております。</p> <p>○産業経済部門説明</p> <p>(委員) 大陶磁器展における天草の窯元さんの意気込みについてお尋ねが一つ。もう一つは、後継者問題が非常に難しいとの話がありましたが、後継者育成は本当に急がれる大きな課題だと思っております。だからこそ、計画的に取り組んでいただけて、そして天草が別の意味で陶磁器の島だということを、県外へアピールしていただけるとありがたいと思います。大陶磁器展では、出てこられる出品者も年々増えてい</p>	

くと思います。コロナが終息してこの大陶磁器展が、秋の天草の一つの大きな目玉としてリピートされればいいかなと思いますけども。個人的にも楽しみにしておりますので、継続してやっていただけたらと思います。

(事務局)まず、大陶磁器展につきましては、昨年度は本年2月に延期までし、実施をしたいという思いで皆さんが一致団結され取り組まれましたが、コロナの関係で結果的にできませんでした。現在、全国から100窯ほどが出店をされて、天草内から、島内から30窯位が出店をされています。70窯近くが県内、県外からということになります。それぞれ窯元さんが陶磁器展以外にも個展で頑張っているしやいますし。また、窯元さんの中には、無印良品での陶磁器の販売をされるなどそれぞれが忙しんでいるのが現状です。そのような中に集まっていただいて、企画会議を開催するなど頑張っている状況です。

次に後継者の育成につきましては、天草陶磁器の島づくり協議会においても後継者育成については今後の重点課題ということで具体的な支援策について今年度検討していくということを予定されている状況です。

(会長)一般的にどこの部門に限らず言わなければいけないことですが、ここであげられた取り組みを全てそのままやるということ自体を期待しているわけでは、実はありません。言い方が難しいですけど。環境指標が今回、検討対象になっています。例えば、コロナなどの状況もあると思いますし、環境指標がこのままだと達成が難しいというところにあるわけです。特に今回説明していただく環境指標については、どうしたらそれが上向くのかということについて集中的に検討していただきたいことが、今回の審議会の意義になります。今日の審議会のタイミングとしましては、次は第3次に向けても考えていかなければならないと思いますので、そこに向けた取り組みにもなると思います。そうすると、例えば、企業誘致をきちんと行えばうまくいくと書かれていたと思いますが、その考え方で、本当に達成できるかということ。この説明の資料とか見ても、企業誘致をこのままやりますってことが、見方によっては見えるわけです。そうではなく、働きたい場所があると回答してない人たちが一定数いるってということもありますよね。働きたいと感じる市民の割合っていう指標としているわけですから。そうするとここでは、もっとやらなくてはいけないこととして、どういった人たちが働きたい場所があると感じてないかの分析が必要だと思います。企業誘致があればほんとに働きたい場所を確保できるかっていう仮説がよく分かりません。働きたい場所を特定するのは難しいかもしれませんが、例えば、アンケートの中でも世代や地域といった属性などを含め、特に働きたい場所があると回答してないということは、分析可能だと思います。そこを分析していただきたい。しかし、なかなかヒントが見えないとなれば、関係事業所に聞いてみるなどし、こうしたらここは良くなるということを出していただきたい。特に環境指標がこのような状況にあるのに関しては、今まで通りのことをただやっていくだけでは難しいということを考えていただかないといけないと思います。そのことが、やり方の改善ややる事の改善とその後の計画につながるわけですから。次の計画を検討されているときに、単に企業誘致ということになれば同じ状況になるわけですから。その状況を分析していただかないと、次の計画作りでは厳しいことになると思います。今の説明は、象徴的なものですが、分析は全

一般的に行っていただきたいと思っています。その結果、根拠を持って何か仮説を立てて、だからこれやってみて、でも結果的にその通りやってみてもうまうまかかったから、次はこんなことやってみる。その繰り返しがあるからこそ、改善が進むことになるわけですから。これまでより、もう少しより深く分析いただきたいなと思います。

(委員)今、会長がおっしゃっていただいたように働きたい場所のミスマッチがどういう原因だろうということだと思います。例えば企業誘致する大きな理由で、人件費が安い、賃料も他に比べると安いということもあると思います。普通に考えて天草に来られる企業は、税制の優遇やそもそも物流のいい場所というよりは明らかに人件費が安い、もしくは高くないというところが挙げられると思います。一方で、市内で働ける場所があるという、そもそも自分のためになるもしくは賃金が高いところを望んでいるとしたら、どうしてもミスマッチになると思います。このままでは、平行線を辿るような気がします。企業誘致しているその企業さんが期待する部分はなかなか公開されていないと思います。こっちに来られてから、成果が出ているかどうかというところも、このことを解決するためのヒントになるのかなあと思いました。こちらの人件費が安いから来られて、その安い人件費のまま継続して、たくさんの利益が出て税制がこう上がるという循環があったとしても、それは単体の部分で入れたら、数で勝負をしなくてはいけないことになります。もしかすると数をたくさん上げようとするというよりも質の高い企業を誘致する方向性で、付加価値を出せる企業が重要なのかなと優先順位としては。天草にそういう人材がいるかという、例えば窯元や漁師さんの中でも養殖のやり方などの長けた方がいらっしゃると思います。農業にしても自然栽培ややっとなら芽吹いてきましたが、コットンを今作っています。日本製の綿であれば、本当にふわふわのお布団を作れるというようなところなど、付加価値のあり方に興味を持った企業が来る、ということであれば、賃金がある程度平均的には、相対的には安い、というところだけの循環から抜け出せないかと思いました。個人的にも企業誘致する方の1番は人件費が安いからということがかなり最優先されると、このやりがいにはちょっと結びついてこないと思います。しかし、自分で自分をモチベートできる、そういう学びの場というのがあると他からもたくさん来るような気がいたします。天草には学びの場がものすごくあるというところで、賃金だけじゃないと。この学べる場というところでものすごく魅力があると思いますので、働きたいというところの意味合いが変わってくると思いました。

(事務局)企業誘致につきましては、低賃金をメリットとした企業という話ありましたが、今現在はIT系企業の誘致を進めています。その関係で先ほどご説明しました、あのサテライトオフィスを民間で運営したいということで、これから募集をかけて造っていただき、さらに、そこにコワーキングスペースやシェアオフィスという形で入ってきていただけるIT系、特にゲーム関係とかアニメ関係といった企業に来ていただくことを進めています。何で来ていただけるかという、IT系の企業は都市部での人材不足があるということです。そういった人材を求められており、コロナ禍ということもあり、リモートの環境で、場所を選ばず仕事ができるというもあります。そういった企業にまずは来ていただいています。昨年度

から4社位来ていただいておりますが、今後も県と市と事業者で立地協定を結ぶなど進出される企業も増えてきますし、高校でも、そういった技術を学べる機会、環境も作っていければということを考えています。人材の育成をしながら今後そういったIT系といった、かなり伸びている産業に注力していくことを考えており、第3次の素案につきましても若者の雇用の創出ということで今回改め、特化した形での記載をさせていただいております。説明が少し不足しており申し訳ありませんでした。

○観光文化部門説明

(会長)この部門では特にコロナ禍で難しい状況の中ということとは理解できます。だからこそ次に何するということを含めてお願いしたいと思います。

(委員)この指定文化財というところですが、今後も保存していくことを続けることが可能なのか、それとも途中で無理となっていくこともあり得るのかをお尋ねしたいです。他の県でも重要文化財を最終的には取り壊してしまうということがあるみたいなのでそういったことも含めてちょっとお話ししたいなと思っています。

(事務局)本市におきましては、昨年度も修復工事等を行ったりしております。文化財においては、所有者の方に権利的な部分を含めた部分を確認し対応が必要であり、その後も所有者の方がその歴史的な価値を持って維持し、文化財として質・価値を落とさないような方法で継承されるようにということ、市としては意見を申すということまでとなっています。

(委員)例えば、文化の継承が、観光にもすごく繋がる直結すると思うので、それがなくなったらもう来ていただけないと思うのでよろしくお願いします。

(委員)これから、観光業の方、海外からいらっしゃる方もどんどん増えてくると思いますが、インバウンドに対する部分では、例えば日本語でしか書いてないところへ多言語表記の追加や、外国人は絶対にインターネットが必要なのでそういった準備も視野に入れていただけるといいと思います。日本の自然を体験したいという方もいるようなので、ぜひそういうところに働きかけていただきたいと思います。

(会長)たしかに環境指標にもなっている観光客には国内もありますし、国外もありますので。

(事務局)コロナの方も落ち着いてきており、現実的にも外国人を受け入れるような体制になってきております。そういった中で本市においても、インバウンド対策については大変重要な課題と捉えており、次期観光振興計画のアクションプランの策定中ですので、その中で盛り込み十分な対策ができるようにしたいと考えております。

(会長)目標を達成することという、どのような傾向なのか、こういったタイプの方々がどれだけ来ていて、今後どのようなタイプの方々を意図的に進めていくのかなど、そういった狙いを持つことも重要なことだと思います。そういう分析から見てみて今度はこの数字を達成していくというところで対処していただきたいと思います。

○教育部門説明

(会長)状況、もちろんコロナの状況や色んなこともありましたので、次の第3次総合計画の事も踏まえ説明いただきましたので、このことも含めまして、皆さんからご指摘いただければと思います。国際交流など取り組みへの参加に関しましてはコロナ禍は難しかったという言い方があったと思いますが、このタブレットを使うことも世

の中では定着してきています。国内外の交流、それから国際交流みたいな話というところは、オンラインをどんどん使おうっていうことが日常的にできるようになってきたらいいとも思います。

(事務局)会長からありました国際化の推進の中で、現状して、国際交流というところはなかなかできていないということです。施策計画の中で、国際化に対応した人づくりのところを見ていただくと、やり方の改善、令和4年度中というところではなりますが、2年間交流授業を実施できていないエンシニータスの学生と中学生を対象にしたオンライン交流を初めて8月に予定しております。初めてですのなかなかうまくいくかどうかはわかりませんが、交流をさせていただくというところで、3日間の予定で交流授業を計画させていただいております。忠清大学校の交流を対象としたオンライン交流も実施するというところでも進めております。忠清大学校とは、天草高校の生徒さんと大学生をオンラインで繋いで交流をしてもらうことを計画しております。ただ、韓国の大学生は夏休みに入ると全部地元の方に帰ってしまうらしくて、だからこそオンラインで繋ぐことによって、交流ができるっていうことを忠清大学校側からは話をきいており実施に向けて進めさせていただいております。

(会長)今後の計画の内容にも繋がっていくと思いますし、オンラインで実質的に学ぶことを繰り返し実践することかなと思いますので。

(委員)国際化の推進の現状と目標の差が一番大きいので、お伺いしたいのですが、例えば、オンラインでアメリカや韓国そういうところを結んでいくときに、どのような話をしていくのでしょうか。トピックがあって、それぞれのトピック毎に参加されるのでしょうか。それとも高校生同士がまず何げないところから語学の交流を目指しているのでしょうか。

(事務局)エンシニータス市とは元々は、市同士が交流を行っており、その部分の教育というところで交流をさせていただくこととしております。対象が天草市では中学生としており、これまでの交流も中学生が行ってございました。向こうの方は高校生なので、個人の部分にはまだまだ日本の子どもたちだけではできてない部分があると考えています。今回、オンラインでの交流をするにあたって協議をさせていただいた中で、最初だけは個別にオリエンテーションを行い、ホームステイみたいな形の延長のようなやり方をさせたいということは考えていましたが、なかなか難しいだろうというところで、今回は一か所に集まり、エンシニータス市側もビーチなど開放的なところに集まるということだったのですが、今回は、本市は中学校を舞台にし、そこで3日間、自己紹介から始まり、それから別れ、個別に向こうの高校生とこちらの中学生の一つ一つトピックという話がありましたが、わかりやすい身近なもの話から膨らましていってというところの3日間の交流を考えています。

(委員)私も中2の娘がいるので、例えば同じトピック、BTSが好きだとか、TikTokで自分のものをあげるとか、ダンスや料理はこんなふうにしています。そういう遊びのところからも入ってみて、その成果物として最終的にアクセスするときは大人が見ればいいと思います。やっぱり動画やTikTokをプラットフォームとするようなやりとりをすると、まず楽しいのではないかと思います。逆に韓国のエンターテインメントのすごさもあると思いますし、ほんとに軍隊入るのかなどもやっぱり聞きたいこ

とがあると思います。そういうことをやっていくと、国際交流っていう勉強の場というよりも、同じ世代の人たちがあるトピック毎に集まると、自然に広がっていくのではないかと思います。

(委員)今のエンシニータスの人たちとの交流の件ですけども、私も20年ほど前ホームステイを受け入れたことがあり、その時も思っていたのですが、やはり中学生と高校生の違い。そこのところは、なんでこのこちらは中学生、あちらは高校生なのっていうのが、そこは昔から疑問だったのですが、何か意味合いがあるのでしょうか。

(事務局)詳しいことはわからないところもありますが、元々の交流では、大人の交流のほか、消防署など色々な交流もされていました。その中で、現在は、市として教育の部分の交流がほとんど主になってきた中で、教育委員会として、これからを担う中学生にホームステイをさせようとなったと思います。ただ向こうからは中学生ではなく高校生となった。天草市とエンシニータスのちょっとした違いが元々からあって、今もその形だと思います。

(委員)ありがとうございます。今後考えてもいいのかなという気はします。

(事務局)忠清大学校とは、逆に向こうが大学生、こちらが高校生又は看護学校生となっています。天草には高校生の中にも海外の大学への進学っていうのも視野に入れる子が増えてきております。ご承知の通り政策企画課にはこの忠清大学校を卒業している李さんに国際交流員として勤務していただいています。彼女の講座では、高校生や中学生を対象にした講座を開催しますが、人気の講座ですぐに定員が埋まってしまうような、とにかく今、韓国に対する、まあ高校生の反応がいいみたいです。海外への進学も視野に入れたことも含め交流を行っています。

(委員)ぜひ、交流はどんどん続けていただきたいと思っています。

(委員)国際交流の李さんは本当に頑張っていただいております、公民館講座も開催していただいております、勉強になっています。

(事務局)活用していただいておりますありがとうございます。

(委員)ただこういった方には任期があると思います。任期終了後には、この事業が中断するのではなく、継続されて、そしてだんだんと良い発展的に続いてほしいと思います。向こうは大学生、こっちは高校生かもしれない。私は、それはそれでいいと思います。中学生の考え、高校生の考え、大学生の考え、いろんな考えを国際的な視野から学んでいくこと、これが大事だと思いますので。交流によって子どもたちの大きな夢を育て、将来外国で活躍する、また、国際化推進の事業の継続と、そういった発展的なことをぜひ検討していただきと思います。李さんはとても人気がありますよ。

○総務企画部門説明

(会長)総務・企画部門に関しましては環境指標及び成果指標に加えて、今説明いただきましたアクションプランというのをも、併せて検討するということになります。総合計画の中でそのトータルに見ていこうということで進めている中で、まずは、資料2-8の説明から入りました。その説明いただいた通り、それぞれの指標への取り組みをアクションプランして、4年間かけて完了を目指そうということをゴールとして動いています。その目標通りに進んでいけば継続、完了となっていて、継続未達となっているものは、もちろんコツコツ進めているのですが、この目標に対しては

うまくいっていない、うまくいっていないという語弊があるかもしれませんが、目標の数値には達成していないところが継続未達となっています。継続未達なのはなぜかを確認しながら、翌年度具体的なことを示す。今年なるべく昨年度の分を補って、継続完了または完了となるのかというふうな確認をするのがこの部門の確認にもなります。特に、継続未達について、集中的にご説明いただきました。また、行政が活動するには予算、お金が必要ですので、その上でどういう効果があったのか全体に見たいということが過去ありましたので、効果額の資料も作っていただきました。歳入、歳出それぞれでこういう効果が出ているということになります。全体的に今ご説明いただいた資料から、ご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。念のために聞いておきたいのですが、アクションプランでの継続未達のは、遅れている部分をカバーして今年度達成するということが求められていると思うのですが、全て可能でしょうか。

(事務局)継続未達のものについては、今年度、令和4年度も計画を立てて、実行していただいておりますので、目標達成が可能というふうに考えております。

(会長)なかなか難しいのではないかと思います。例えば、財政運営の健全化での対策の見直しは、簡単にできるのかなという気がします。

(事務局)現在、第3セクターで運営している温泉施設を運営している2施設がございます。先ほど説明しましたとおり、今サウンディングを実施しておりますので、その結果をもとに、市としての方針を決定しようと考えています。牛深については指定管理期間が来年度までございますので、今年度中に方針の方を決めたいと考えております。

(会長)では、期待しておきます。

(委員)行政システムの改善での、まちづくりバンクの運用ということ。非常に、聞く力を具体化する効率の良い取り組みだと思一方、ここで色々な市民の知恵やアイデアが出てくると思います実際に出てきたものは、例えばこのアクションプランに反映するのか、どこまで実行性があるのか。色んないいアイデアが出てきたとしても、数年かかってしまうこともあるのでしょうか。考えられていると思うのですが、このまちづくりバンクの内容でまた審議して変更したりするのか、一つの参考として取り留めておくのか、この辺りはどういうふうな位置付けかお伺いできればと思います。

(事務局)まちづくりバンクの概要を説明いたしますと、今こちらで考えておりますのが、一つは市の今課題があるものに対して、それぞれの課から天草市としてこういう事業に取り組みたいけれども課題がありますと。その部分に対して、市民の皆さんからご提案をいただき、その提案について、あるいは市としてこれはいいよねっていうものについて検討、または採用したいと考えております。また、できない時には、きちんとできないということを返事していこうと思っています。もう一つ、自由に提案できるスタイルも必要と思いますので、そういった自由な提案につきましては、求めているのは市民参画というのも求めていますので、自分達としてこういう提案をしますが、自分達はここまでは関わりますよ、あるいはここまではお金は出せませんなど。また、こういう取り組みが採用されたら自分達としてこういう動きができますといった、自分事化をしていただくような提案の仕方をしていただこう

と思っています。先ほどご意見をいただきました、即取り組むというものも当然出てくるかと思いますが、やはり天草市の場合は総合計画に基づいて事業の組み立てをしておりますので、総合計画にないものについてはきちんと総合計画に反映させたのちに、計画を実行していくということになります。ストックさせてもらうというか、預けていただいて、後ほど利子をつけてお返しするみたいなそういった仕組みができればなと思っています。現在構築中です。よろしくお願いします。

(委員)これから公聴会みたいなものが開かれるのでしょうか。

(事務局)昨年度に市政だよりや市ホームページの方で皆さんに意見を問いました。その中でも色々意見をいただきました。また、子育てネットワークさんのところにもお話を聞きに行ったなども行いました。色々な方とのオンラインの協議をさせていただいた中で、制度設計は進めてきました。今後はこの仕組みをどのように周知をしていくかというところに力を入れていきたいと思っています。市ホームページ上へ特設サイトとしてオープンしていくことを今進めているところです。

(委員)皆さんが比較的こう考えていることがここへ提案されることになるのでしょうか。

(事務局)市長のマニフェストの一つでもあります。市民参画に関して、自分事化、みんな事化をして、街のまちづくりに取り組んでいきたいという思いがあります。気軽にそして、質の高い提案が生まれてくればと思っています。

(委員)やっぱりこうすれば削減になるのではないかと効率化するのではないかと。もしくはその自主財源として新しいところの提案があったらと思います。みんな集まっている時には浮かんだりします。なんとなくこう、敷居を下げて、好きな時にこう意見を言えたら、ある意味皆さんのガス抜きにもなるかなと思います。その部分は、今後の課題だと思うのですが。

(事務局)スマートフォンからでもすぐに入力ができる仕組みは検討しています。ただ、私たちもその方と連絡を取りたいので、管理サイトの部分では、住所やお名前、連絡先は当然登録をしていただいて意見を述べていただく仕組みにしたいと思っています。現在もそういったご提案やご質問ができないシステムではないですけれども、一つ市民参画に特化した意見の募集サイトを作ろうと思っています。

(会長)サイトや情報を集めるという感じだと思います。職員の皆さんがそれぞれ、市民の声を聴きに行きながら集めてきて、それがちゃんと見えるようになってきて。で、一緒になって当事者として動きたくなるみたいな、そういう好循環があるような感じの、当事者性がある職員側の動きも重要なような気がします。

(事務局)いただいた提案はもちろんサイトにアップをします。それに対してまた、次の方が提案をできるように議論の過程というか、取り組みの過程が見えるようなサイトづくりを考えています。

(会長)サイトづくりだけだと目標には近づかないという気がします。シンクタンクを作るみたいなものがあつたほうが、近づくのではないのでしょうか。頑張っているからこそ、きちんとしたアイデアが出てくるしわけで、サイトだけではない気がします。なぜ私がここで述べるのかというと、天草市は目指すべきことを実現していくわけです。その時に、例えば今日の議論のようにどうしたらできるということに仮説立て、分析し、考えていただいています。そして、その時には気づきがこともあるから、これはどうしたらいいのかということの色んな会話の場を作ったり、声を集めると

など、そういったことをやっていくのであれば、実現しやすくなっていきます。今までどう行政職員が受け止めて、行政としてはできること一生懸命説明していきま
すといった対話の場とかを作って、それじゃ私たちも一緒になってやります。そう
いうことがあるからこそ、環境指標が実現しやすくなるんだらうと思っています。
何か、サイトで色んな事に対してなんでもいいからどうぞというときは、行政職員
が悩んでいるようなこととかをどうしたら実現できるのかということがわかりや
すいのだと。そういったことに関して一緒にこう取り組み、また市民の方々に色ん
な意見をもらいながら自分事として一緒に活動する場面を作っていくことに意味
があるのではないかと。

(委員)まちづくりバンクは、とにかく斬新な取り組みであると私は思います。色んな提言、
提案が出てくることを期待しております。大分県の湯布院。あそこがまちづくりで
ドイツを参考にしながら観光客の集客を高めて、非常に知名度が上がっています。
天草市が、九州の中でも特にこのまちづくりバンクによって、こう活性化の起爆剤
となればいいと思います。色んな情報提供や活用の公開。そのあたりを計画的に練
っていただいて、計画に反映ができれば、とてもバンクに登録した人が喜んで協力
してもらえんと思います。ここから参画してもらえんと思います。今年度から始め
るということで、継続的に継承しながら、進めてほしいと思います。非常に楽しみ
です。

(会長)次の総合計画に向けた話で職員の働き方改革が課題です。これは数値的に致命的な
ことになりかねないということです。職員が楽しく働いて挑戦できるかっていうの
は、市の未来にすごく影響することです。決して職員の皆さんがダメだということ
でも何でもなくて、こういうことが全て市の未来に影響するってということで、次の
計画ではきちんと考え繋がればいいと思っています。こういう分析をする中で特に
こう、キーになっているポイントを出していただいて、その部分がより具体的に
動いていくことが大切であって、職員のことに関して、職員の皆さんからなかなか
言いにくいことですので。普通民間はやっています。

(事務局)前回もお話をさせていただきましたが、働きがいについては総務課としても非常
に重要なことと考えております。職員自分自身の成長のためには、研修もそうす
が、研修についてもこちらから一方的な研修ではなくて、職員のキャリアアップ、
能力の開発の動機づけというような、そういったセミナーを通し、職員自ら何かし
たいというような意気の込み、そういう意識が芽生えるような研修に取り組みたい
と考えております。もう一つは、職場の環境をもう少し整えるということに取り組
んでいきたいなと考えております。

(委員)天草市職員として採用されて、1年目2年目3年目とかですね、おそらく様々な業
種方がいらっしやると思います。採用されて、1年2年3年4年5年と働いてお
られる職員の方の意識の変化や仕事が自分とミスマッチであるなど色んなこう要
因が重なってから、働きがい疎外されてないかなと思います。その点について、
職員の意識の変化ですが、1年2年3年目の計画的な研修などがあるのでしょうか。
そしてやはり満足度を持って、公務員として頑張ってもらいたいなと思います。
意識の変化などをどういうふうに捉えてかれているのでしょうか。

(事務局)職員のやりがい、現在の業務にどういったやりがいを持っているのかっていうの

を毎年異動希望調書の中で全職員に対して実施しています。その他にも、ストレスチェックというものを全職員に対して実施をしています。その中でも、やはり仕事をしていて活力がみなぎるかとか、そういったアンケートを元にやりがいがあるとかそういう数字も把握をしております。それに対して、異動が全てではないのですが、自分のやりたい希望する職場など、そういったことも少し検討しながら職員の将来的なことも踏まえて人事配置の検討をしていきたいと考えております。

○地域振興部門説明

(委員)ふるさと住民登録制度という制度がありますが、良い制度と捉えております。例えば、東京のふるさと会などの団体もありますので、もう少しターゲットを絞ったり、連携や意見を求めたりすると移住への相談も増えるような気がします。

(事務局)今年度、2年ぶりぐらいに5月に東京の方で移住相談会を開催しました。2年前と比べても倍ぐらいの方が相談に来られました。しかし、漠然とした相談というか、天草をターゲットということではなくて、何となく移住したいといった、モヤッとしたような形の相談が多かった印象があります。いきなり移住ではなく、まずは『ふるさと住民登録制度』に登録していただくと、天草市での様々な特典や魅力ある天草の住みやすさなどそういった情報も併せて届けることができますということも紹介しており、登録者も順調に伸びているところです。実際は、移住まで繋がるにはある程度の時間的なスパンがやっぱり必要と感じておりますが、まずは天草のファンとして関わっていただくということを継続的に進めていきたいと考えております。

(委員)ふるさと住民登録制度での情報での周知が進んで、「子育て環境がいい」など天草市の売りをしっかりと伝えていただければ期待感も高まってくると思います。

(事務局)今年度の6月補正予算で提案した中に保育園留学という実証的な事業を始めてまいります。その取り組むに至った経緯として、北海道の厚沢部町で昨年からの取り組みされており、全国から問い合わせが殺到し、現在350件ぐらい問い合わせがあり、キャンセル待ちのような状態ということです。全国的に子育てのしやすい所で、自分達はリモートで仕事をして短期間子どもを保育園に預けるといったことに需要があるということから始まっており、今回天草市もチャレンジしています。このことがきっかけとなり移住に繋がるというのは、難しいかもしれませんが、天草に短期間住んでいただき、良さや環境といったものを経験してもらい、最終的にはこの移住に繋がっていただければと考えております。

(委員)天草ではみつばちラジオもありますので、一つのツールとして利用していただき、促進を加速させていただければ非常に嬉しいし、天草市の評判も上がると思います。ぜひご検討してください。

(事務局)検討ではなく、積極的に進めたいと思います。

(会長)環境指標を見ても、どうしてもこれは人のつながりで進められてきたと思っています。次のタイミングとして第3次の計画の策定の中では、どう変えていかれるか期待していくところです。移住定住に関しては、逆にこのタイミングでどこに住んでもいいということが増えてくるみたいですし、そういった生き方に対応した天草のやり方をぜひ表に出して進めていただきたいと思います。天草モデルも作れると思います。子育ても魅力ありますし、人とのつながりがあって自分らしいなりわいも

作れ、ただ単に自分がやっただけじゃなくて他のひとにも影響し合えるようなやり方を提唱し、移住フェアにいても、天草って確かに魅力的と説明するのではなく、天草モデルに合っているような人達にアプローチしていくことを意図的にやっていくとより移住が加速していくのかもしれない。普通のことだからというのではなく、ちょっとまた天草らしいやり方を提唱していただいたほうがいいかなと思っています。また、それには行政職員こそ勉強して色々なことを学んでいって、だからこそ、そのことが出来ると思ってほしいと思います。天草モデルという言い方をしましたが、そういった仕組みをつくれるような体制が出来るかっていうことも考えていただくともっといいかなと思います。

(委員)馬場市長が社会教育の講演の中で将来的に全国の子どもを天草で体験入学の話がありました。それを将来的には移住定住の基礎づくりとして子供たちが大きくなったときにもう一回天草に行ってみたい、天草に住みたいと思えるようなモデルとして将来的なビジョンに繋がる取り組みとしていただければ、先ほど会長がおっしゃった天草モデルの一つとなるかもしれません。全国的に天草の知名度が上がるという取り組みのきっかけとなればと思います。

(事務局)保育園留学の方も市内の保育園の中でも40保育園ぐらいが一時預かり保育という事業に取り組まれており、民間の保育園さんにもこういった問い合わせがあつているとも聞いております。潜在的な需要があると考えておりますので、うまく保育園とも連携を取って事業を進めていきたいと思っています。

(副会長)いつも不思議に思うのですが、これだけ移住者が順調に増えているのに、なぜ市民の満足度が低いというところで、行政の方からしても違和感はないのでしょうか。協働によるまちづくりの推進のところ、主に満足度になります。コロナの影響だけではないような気がしています。移住者の人は魅力的だと思っているのに、何となくですが、魅力に気づけてないのではないかとそんな気がします。

(事務局)コロナが一番の原因だとは思いますが、ほとんどの事業や祭り、イベントが中止になっています。しかし、担い手となる団体の活動が充実していると感じる市民の割合も少し下がっています。ここは上がってくるべき数値ではないかと思っています。このようなきちんとした部分は分析していませんが、若い人たちが少なく壮年の方が中心となると若手も参加しづらいというような現実があります。それと継承ということがなかなかうまく出来てないと思っています。地域は昔、青年団がありました。そういった団体もなくなり活動もしづらいというところも一つの原因とも思っています。やはりその、地区振興会等でいろいろな活動されていらっしゃいますので、その中に若い年代層を取り込んでいくことがこれからの重点項目と思っています。若い世代に対しての仕掛けを充実していく必要があると思います。

(副会長)おっしゃる通りだと思います。力がある方がそのまま年をとり、力を持ったまま代替わりせずに残っているとどんどん不満ばかり出だされていきます。本来なら十分見てからAさんのやり方、Bさんのやり方、また次、CさんはAさんの後継人と色々変わっていけば、ガス抜きも出来るのですが、ずっと同じでいつまでも下っ端で、40歳、50歳となったら面白くないですね。この辺を上手に混ぜてあげないといけないと思っています。今は混ぜてない感じがします。そのコアだけ、移住者の方は自分に合ったところで関係性が作れるので、割といいなのですが、地元の

方はなかなか動けないですね。だからそこが問題かなと思って、もっと混ぜることを意識して混ぜるやり方をしているのではないのかと思います。すぐにもやれることの中で、割と簡単にやれるのは、天草は一つというか、合併したことによって何となく混ざりきってない感じがするので、適切に混ぜるような形として、例えば子供を使ってでもいいですし、移住者の方を使うでもいいですし、今までにない組み合わせを試してみる、チャレンジしていかないといいなあと感じます。私の知っている限り、天草には行政の人も民間の人もすごく面白い人がたくさんいます。しかし、一度もあの人とはつながったことがないということが結構あります。ぜひそういう簡単に出来ることで改善が出来るのではないかと思った次第です。

(会長)ひとつご検討ください。相乗効果を含め考えていくのが審議会とっていますのでよろしくをお願いします。今回は評価ではありますけど、下からどんどんとお考えいただければと思います。

○保健・医療・福祉部門説明

(副会長)ちょっと教えていただきたいのは、目標値を42.9と設定されており、達成が難しいと見えていて、このことをどう考えていますか。

(事務局)実際、アンケート結果を見ましても目標としている数値は非常に難しい数字と認識しております。設定されたこの数値がうまく把握は出来ていないのですが、確かにちょっと難しいなというような目標値になっているというのは認識しております。

(委員)そうですね。果てしない目標を掲げていると、しんどくなってくるので、どこがどうなのかとかつというのと、改善目標に進められるといいのかとと思っているのですけども。しかし、状況が始めてから大きく変わっている可能性あるんで、次の第3次の部分には、例えばステップアップしていけるような目標設定をすとか、段階的に検討していくといったそういうことができたならまだいいのかなと思いました。計画手法としてのお話になりますが。

(委員)緻密に計画を立て取り組まれていると感心しております。今いただいた資料の目標を目指した色々な取り組みについて書いてありますが、障がい者の社会参加型の充実で地域づくりの推進がありますが、これ見るととても素晴らしいことだけでも、今やりたいこと、中、長期の視点でやっていくこと。そのあたりで、これに取り組む優先順位、段階っていいですか、それがあはしないかと気もします。一つ一つの事業は、とっても素晴らしいと思いますが、なんかこれに少しでもこう目標値に近づくような、そういったこう取り組みができればと思います。期待も含め述べていただきました。

(事務局)優先順位についても考えて取り組んでいます、やはり市民の方の障がい者の方についての理解を深めるといったことをやっていきたいと思っております。障がい者のことを健常者の方も理解してほしいし、障がい者の暮らしを一般の方も知る機会を作ることがやはり理解、福祉に繋がると思っております。

(委員)障がい者に対する理解が一番難しいと思います。障がいを持って生まれた方、健常で生まれて障がいになった方、そして老い先どうするかと悩んでもおられます。例えば、色んな市が計画されるようなイベントのときに、この障がいの社会参加って

いう視点を持って計画立案されると、見守りや実際の避難訓練では中身が違ってくると思います。ほんとうに機械的かというと語弊がありますが、もう少しこのあたりを捉えて、障がいの方にも参加してほしいと思います。理解は簡単かもしれませんが、行動に移すことは難しいと思います。少しずつでもいいと思いますので。

(委員)説明の中で、障がい者の通所支援事業所が5件ほど出たということで、この件については、障がい者を持っている親御さんたちに聞いても、どこに預ければいいのかとか、今まで少なかったというご意見も聞いていました。今、民間の方で通所支援事業所を開設されるというか、創業される方が結構出て少しずつですが助かってきたという人のお聞きをききます。雇用の場にもなると思います。今、仕事がコロナ禍で、働く場がなくなった方もいらっしゃるということで、雇用の場と考えると、とてもいいことではないかと私は思っています。サービスの向上にも繋がって、数値も上がってくると思います。よろしくをお願いします。

(副会長)今の一番の敵は無関心だと思います。しかし、そこにチャンスがあると思います。分からないとか関係ないと答えている人に、少しでもインフォメーションを出して、1年以内に障がいのある方に接したことがある方が、あと一歩踏み出すことが出来たら、そこに天草は優しさにあふれた町になる可能性がすごくあると思います。もともと、やっぱそういうレベルの高い人がいるので移住者を受け入れていると思います。あとはそこをこう、ひと手間かける工夫をアンケートだけで終わらせなくて、事前に簡単なクイズを出してからアンケートに答えてもらうといったちょっとした工夫もされるのも方法だと思います。天草はそういった可能性も秘めているといつも思っています。数字だけで見えてしまうと見えなくなってしまうので、数字に表れないことをどうやってこう拾っていくのか、そのことをチャンスとして返していくアクションで改善していくことがすごく大事だと思います。

(委員)アマビズにもフリースクールをやりたいってところの方の相談があります。インターンのお手伝いなどを行っていますが、私も自分ごとに考え始めました。こう皆さんがいろんな財源や寄附で、何か参加できるという可能性とかはあるのでしょうか。障がいのある方に、何か支援したいと言っても、一般的な寄付もあれば、ピンポイントで支援したいと思う人もいます。まずはお金から関心がはじまってくると、自分もプラスとなりの費用にもあてられると具体的なのかなと思いました。このシステム自体がどうなのかわからないですけど、何となく自分が何かやれることが身近になってくる、第一歩を作ってもいいのかなと考えたところで

(会長)確かに、いろいろな切り口が各状況の中であると思いますし、そのなかで、どうしてもこう理解してもらおうと伝える、何かするという考え方になりますが、結局は、そういう設定を増やすこともおそらくあるとは思いますが。部門でもいろいろな方々に頼んで取り組んでもらっていると思います。この部門はすごく広い分野でもあります。ですけど、それぞれの専門性がある人達が集まっていると思いますので、次の計画では、あえて挑戦することを今後の目標としていただきたいと思います。

(委員)障がい児をもつお母さん達とよく接したりしているので、多分この数値ではなかなか見えてこないとも思います。障がいについては、皆さんが他人事を感じてらっしゃる方が多いっていうのはとても感じています。ほんとうに障がい児をもって、関わ

ったことがある方への指標が必要ではないかとは思いました。

○生活環境・防犯防災部門説明

(会長)ただ試行錯誤していただいておりますが、ぐっと指標が上がってこないと悩ましい状況にきていると思います。並行移動しているところの要因をより丁寧に分析し、だからこそ、ここを変えらるともっとよくなるということで進めていただいていると思います。だからこそ、これでいいんだと考えれば、この数値でとなくなってしましますが、そうでなく、やはり当初掲げた目標に近づけるのであれば、これをあえて変えてみようという部分を出して取り組んでもらいたいと思います。

(委員)災害に備えた環境が出来ている、災害時助けあることが出来ると思うところになりますが、多分に私たちが接しているお母さん方、若い世代の方々は、かなりここに当てはまってこない人達がたくさんいるのではないかと思います。何故かという、市政だよりを貰ってないとか、どこに避難所があるなどよく分かってらっしゃらない方が多くいます。災害ガイドラインの冊子を持っていないなども耳にしたりします。転入されたりしても、確実に皆さんが受け取られているということ把握が出来て、どの段階で皆さんに、情報を確実に受け取っているかというのが気になるところです。

(事務局)ハザードマップなど防災等の情報については、市の広報に折り込み各世帯に配布しております。広報の配布は区長さんへお願いしており、区に加入をされていれば全戸に配布となっております。

(委員)マンションや集合住宅に来たけれども、区長さんが分からない、班長さんが分からない、その班への入り方が分からない、誰に聞いたら教えてもらえるかも分からないと聞きます。

(事務局)市民課に転入されたときに、区への加入のお願いというチラシを配っており、あなたの区はどこでどこ班かが分かるチラシをお配りしております。区長さんからも特にマンションやアパート住まいの方が区に入っていないという話もお聞きする状況もあります。

(会長)指標が平行移動しているということは、後期の計画に入った4年間で、グッと指標を上げようと思っても何も動いてないってことになります。いったい、何故なのかといえば、請求してくださいということだと思います。町内会に入っただけならばというときに、そのターゲットをどうするのかってことで、その今のままがいいかたちといったそういった分析されていますかという指摘でもあります。今のままだと永遠に平行移動かもしれません。ですので、そういう分析をもって出していきたいと思います。行政としても資料を用意しているし、考えたターゲットを設定することかもしれないので、今年はこのターゲットを重点的にやりましょうとか、そういったことをぜひやっていただきたいなと思います。

○都市基盤整備部門説明

(会長)先ほどの部門と同じような話になりますけども、数値が比較的平行移動となっておりますが、どうして並行移動していると考えますか。

(事務局)考え方としたら、結局整備したところでは割合的には大きくなってはいますが、要望しても整備されない所に関してはアンケート的に低いと考えております。道路が整備され、要望していた道路がすぐ整備されたとなると割合も上がって行くと思

ます。ただ、要望されても2年3年先になると、割合は下がっていくと思っています。

(会長)毎回同じような話をしているような気がしますが、道路を整備しなければ指標は上がらないということは一見正しいのですが、いつまでも出来ないことが続くかもしれないので、それであっても出来ることは何かないかを考えていただきたいと思います。究極的には移動しやすいは道路が整備されていればいいのかもしれませんが、しかし、どうしても困っている方、移動しにくいことには何か理由があるかもしれません。出来ることを考えながら、少しずつ改善していくことで、市民の満足度を少しずつでも上げていくことが重要だと思います。もちろん大きくは道路が出来ないとダメかもしれませんが、出来ることは何かがあるか、そういう観点でもっていただきたいと思います。そうでないと、永遠に平行移動になってしまう。ちょっと目標が合わないことにもなってきます。何かこういったところが特に重点的にやるといいなど、そういったことが出てくるとよりいいかなと思います。おそらく議論されているのかもしれませんが、道路をつくれればいい、以外のもので何かあれば説明をお願いします。

(事務局)資料にも記載していますが、市道ボランティア、道路の管理を地域の団体に行ってもらっております。その中で、道路が陥没やヒビが入っていますといった情報提供はあっていますので、その中で考えていけばと思っております。道路整備についても順位を決めて、道路が悪くなっている状態のところを優先して一生懸命取り組んでいるところです。

(会長)皆さんがよくご存知かと思っておりますので、そこは自信をもって、こういうことをしているから実はこういった意味があり、ここではうまくいっているけど、この部分はなかなか悩ましいという部分を見せていただければと思います。資料の数値をパッと見て結局は良くなっていないと言われてしまったら悔しいじゃないですか。だからこそ、こういうことを頑張っているということをおの今のように皆さんが説明できたらいいと思います。この次の資料では、市民一般の声だけではなく、整備された地域の方がいいと思っていられるならいいと思います。

(委員)すみませんが、道路の話しか出なかったのですが、例えば、天草市には港はありますか。

(事務局)あります。

(委員)例えば、その移動しやすさの中に、天草の場合は、海の移動しやすさも大事だと思います。阪神淡路大震災のときも、神戸では港で救出されたりもしました。一番手は道路だとは思いますが、特別だとは思いますが、橋などが使えなくなってしまうと切実な問題にもなります。

(事務局)道路メンテナンスにつきましては、現在は新設から維持補修への転換をしております。橋梁だけでも天草市内に1, 118の橋梁がございます。国が法律を定め、5年に1回、法定点検をするようになっております。この法定点検に基づいて、補修工事を順次実施するようになっております。天草市内に17のトンネルも天草市で管理し、法定点検をしながら改修、補修工事を計画的に進めているという状況になります。港に関しては、県の管理港には大きな船が来るのですが、市が管理している港湾に関しては大きな船が来ませんのでそういう体制までは取っていないところ

です。

(副会長)天草市ならではの課題がいくつかあると思います。天草市独自で、安心安全のための徹底もあるかもしれませんが、もう切り離していくところが出てきても仕方がないと思います。たとえば、自然に戻すような努力をすとか土木の仕事になるかもしれませんが、そういう意味でも県や国と連携して、それでやっていっていただけると、天草らしい国土というか土地の作り方のベースになると思うので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

(委員)道路整備や補修にすごく取り組んでいただいている一方で、会長がおっしゃったように、長期でいうと平行線だと。次の一手は何かというときの、例えば、子ども達がどっかに行くといってもなかなか自由に行けないとか。もう少し上手い自動運転の仕組みや地域を回る新しい移動の仕方など、天草らしいこの地域ならの取り組みがあってもいいかもしれません。子供たちもそれから高齢の方もどんどん外に出られるような仕組みを実証実験みたいなどころから考えてもらってもいいかもしれません。このセクションかは分かりませんが。

(事務局)話がありました自動運転などにつきましては、車の会社などと提携が必要かもしれません。バスでしたら、地域振興部門で公共交通対策の部分がありますが、今は、バスがだんだん無くなってきており、共同での乗合タクシーの運行など移動しやすい取り組みもはじめています。また、高齢者の方々がどうしても免許返納したときの移動手段についても今後、福祉課や地域振興課、ほんとに色々な部署に関わってくる問題もあると思います。

(会長)やはりインフラです。人々の基盤になるものですので。これまでの意見はこれからの基礎的な部分となると思いますので、よろしくお願いします。

議題 (2) 地方創生推進交付金等の事業実施に係る検証について

※事前に資料送付し、質問事項をいただき、回答を行っています。

【地方創生交付金】

(委員)ネーミングが非常にいいと思います。誰が考えたのか素晴らしいです。人を呼び込むマグネットシティは何か意味があるのですか。

(事務局)単に移住定住事業や外国人への多文化共生事業としてもいいんですけど、タイトルから少しこだわって取り組んでおり、目立つことも必要と考えており。

(委員)ウクライナの難民の問題ですが、各自治体で受け入れるときには、そういったそのための助成が来るのでしょうか。

(事務局)避難民として、認定された方については、国から支援があります。自分の知り合いなどを伝えてこられた方とは、また別で、日本に身寄りがなく、政府専用機で来られる方がいらっしゃるので、そういう方を天草で受け入れをした場合には、国からの助成金があります。

【地方創生拠点整備交付金】

(委員)ここのそのKIPを確認する上でもスポーツ以外で催しとかコンサートとか、そういう可能性も含まれているのでしょうか。多分、用途のことになってくると思いますが。

(事務局)整備しますスポーツ拠点施設につきましては、陸上競技場がメインになりますの

で、まずは陸上競技、それとインフィールドでサッカー、ラグビー、グランドゴルフが出来ます。また、市民の方にも利活用していただきたいということであります。大会や合宿に来ていらっしゃるしますので、その方々にもヒアリング等を行っており、出来ればここで練習が出来るということでありますし、高校生が冬場に積極的に合宿に来ています。現在の競技場では一か所で出来なく、バラバラの会場で実施されておりますので、この施設が出来れば、おそらく一か所で出来るだろうということで、そういう合宿への活用も進めております。それから、大学の大会になります。第三種公認陸上競技場となりますので、九州大会など色々な大会誘致も行えます。あと、本市にはサッカーコートが今ございません。初めて出来ますので、サッカー関係者の人はもう非常にありがたいとおっしゃっていますし、ウォーキング・ジョギングが出来るよう舗装を行います。そこでジョギングやウォーキングをされたり、子ども会や小学校の駅伝大会やマラソン大会にも利用出来ると思っております。この施設が出来れば、市民の方にもまず使っていただきたいと思っておりますが、外部からも誘致が出来る施設であると思っております。十分検討して努力してまいりたいと考えております。

(委員)ペットを連れてくる方も結構いらっしゃるのですが、犬と一緒に走るころは可能でしょうか。

(事務局)規制をかける予定はございません。人工芝であれば犬のフンで焼けてしまいますが、今度は人工芝でございます。人工芝については飲み物も水でなければならぬなど制限をかけなければならなくなるのですが、天然芝となっております。市のホームページでも公開しておりますけど、今の本渡運動公園に陸上競技場がございますが、そちらのほうは人工芝でサッカーコートが一面取れる広さを整備する予定にしておりますので。それも出来ればまたサッカーなど大会等の誘致が広がっていくと思っております。

(委員)自転車では入れないですか。

(事務局)自転車は入れません。

【認定中の地域再生計画】

意見なし

議題(3)第2次天草市行政経営改革大綱の策定について

○全体スケジュールの説明

意見なし

以上